



新国立劇場

【レパートリー】

新国立劇場 2015/2016 シーズン
リヒャルト・シュトラウス

サロメ

【全1幕<ドイツ語上演/字幕付>】

指揮:ダン・エッティンガー / 演出:アウグスト・エファアーディング

2016年3月6日(日)14:00 / 9日(水)19:00 / 12日(土)14:00 / 15日(火)14:00

妖艶に舞ったサロメが求めたものは...ヨハナーンの生首だった・・・
オスカー・ワイルド原作。官能と倒錯の衝撃作。

R.シュトラウス、ワーグナー作品を中心に世界的に活躍するソプラノ、
カミッラ・ニールントが難役サロメを歌います。

ヘロデはクリスティアン・フランツ(2014年「パルジファル」タイトルロール)、
ヘロディアスはロザリンド・プロウライト(新国立劇場初登場)、
ヨハナーンはグリア・グリムスレイ(新国立劇場初登場)、
指揮者は、若き巨匠ダン・エッティンガー(東京フィルハーモニー交響楽団 桂冠指揮者)です。

オスカー・ワイルドの「性的倒錯と退廃的な戯曲」と、
リヒャルト・シュトラウスの「鮮やかで濃密な音楽」が融合したこのオペラ。
アウグスト・エファアーディングの「妖艶で官能的な演出」をご堪能下さい。

(過去の記録写真も是非ご覧ください。)

【好評発売中】 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 桑原 貴

Tel:03-5352-5733 / Fax:03-5352-5709 / E-Mail:kuwahara_t0530@nntt.jac.go.jp

【レパートリー】
新国立劇場 2015/2016 シーズン
リヒャルト・シュトラウス

サロメ

【全1幕<ドイツ語上演/字幕付>】

初演: 1905年12月9日 ドレスデン宮廷劇場
原作: オスカー・ワイルド
作曲: リヒャルト・シュトラウス/Richard STRAUSS
ドイツ語翻訳台本: ヘドヴィツヒ・ラツハマン/Hedwig LACHMANN

■妖艶に舞ったサロメが求めたものは... 官能と倒錯の衝撃作!

オスカー・ワイルドの耽美的、退廃的な戯曲を、R.シュトラウスが極彩色の音楽でオペラ化し、大反響を呼んだスキャンダラスな傑作。1905年にドレスデンで初演されるや衝撃と賞賛を呼び、R.シュトラウスは本作品でオペラ作曲家としての名声を確立しました。全1幕の舞台には、豊麗で甘美な旋律と大胆な不協和音が凝縮されており、緊張感溢れる濃密なドラマに息をつく暇ありません。なかでも、有名な「7つのヴェールの踊り」は官能美に満ちた見せ場。故エファードディングによるプロダクションは、舞台中央に巨大な古井戸を据えた迫力と妖しさが漂う秀作です。

■ニールト扮する魔性の女サロメが観客を虜にする

難役サロメに迎えたのは、R.シュトラウス、ワーグナー作品を中心に世界的に活躍するソプラノ、ニールト。2007年「ばらの騎士」以来9年ぶりの登場となり、ウィーン、パリ、ベルリンなどで聴衆を魅了したサロメを、いよいよ新国立劇場で演じます。ヘロデ役には昨シーズン「パルジファル」タイトルロールで絶賛されたフランツ、ヘロディアス役にはイギリスのベテラン歌手プロウライト、ヨハナーン役にはワーグナー歌手として第一線で活躍するグリムスレイなど充実の布陣が揃いました。タクトをとるのは、若き巨匠エッティンガーです。

<新国立劇場 オペラ「サロメ」 ホームページより>

■作品について

音楽史においてリヒャルト・ワーグナー(1813年—1883年)はドイツ・ロマン派に分類され、リヒャルト・シュトラウス(1864年—1949年)はその流れを受けているとされています。シュトラウスはワーグナーが設立したバイロイト音楽祭に1889年、1891年に助手として参加、さらに1894年には「タンホイザー」を指揮した経歴を持っています。シュトラウスは、このオペラ「サロメ」を作曲するまでに2作品を作曲していますが、いずれも成功しなかったとされています。(1作目が大失敗、2作目は普通に成功という説もあります。)1作品目のオペラ「グントラム」(初演:1894年)ですが、ワーグナーの影響が非常に強い作品とされ、台本もワーグナーと同じようにシュトラウス自身が手掛けています。失敗の原因は、ワーグナー作品に拘り過ぎたためという説が多いです。2作目のオペラは「火の危機」(初演:1901年)です。この作品はメルヘン・オペラとされていますが、ストーリーは大胆な性描写を含んだ作品です。シュトラウスの洗練された彩色にあふれる音楽で表現される性描写は、この2作目のオペラで垣間見ることが出来るといえるでしょう。そして3作品目となるオペラ「サロメ」です。1891年にオスカー・ワイルドは、原作となるこの戯曲を発表いたしました。そして1902年にリヒャルト・シュトラウスはベルリンでこの芝居を観ました。彼は大胆な性描写を含むこの演劇を見終わった時点で、既にこのオペラに対する作曲のイメージが出来ていたと言われています。そして1905年にドレスデンで初演を迎えました。公演は大成功を収めました。シュトラウスはオペラ作曲家としての勝利を得たのです。その後、4作目となる「エレクトラ」で、戯曲のフーゴ・フォン・ホフマンスタールと出会います。そしてシュトラウスはホフマンスタールが亡くなるまで名作オペラを残し続けたのです。

【参考文献】音楽之友社 作曲家◎人と作品シリーズ「リヒャルト・シュトラウス」岡田 暁生 著
音楽之友社 スタンダード・オペラ鑑賞ブック[3] ドイツ・オペラ<上>
福武書店 ラールス 世界音楽辞典

報道用資料

■リヒャルト・シュトラウス作曲 オペラ 一覧

【台本作家名】

op.25	『ゲントラム』	【作曲家自身】
op.50	『火の危機』	【エルンスト・フォン・ヴォルツオーゲン】
op.54	『サロメ』	【オスカー・ワイルド／H. ラッハマン】
op.58	『エレクトラ』	【ホフマンスタール】
op.59	『ばらの騎士』	【ホフマンスタール】
op.60(I)	『ナクソス島のアリアドネ』	【ホフマンスタール】 (初演)
op.60(II)	『ナクソス島のアリアドネ』<改訂版>	【ホフマンスタール】 (現在一般に上演されている版)
op.65	『影のない女』	【ホフマンスタール】
op.72	『インテルメッツォ』	【作曲家自身】
op.75	『エジプトのヘレナ』	【ホフマンスタール】
op.79	『アラベツラ』	【1 幕;ホフマンスタール、 2,3 幕はホフマンスタール死去のため作曲家による自由な改変】
op.80	『無口な女』	【シュテファン・ツヴァイク】
op.81	『平和の日』	【シュテファン・ツヴァイク(原案)、ヨーゼフ・グレゴール】
op.82	『ダフネ』	【ヨーゼフ・グレゴール】
op.83	『ダナエの愛』	【ヨーゼフ・グレゴール】
op.85	『カプリッチョ』	【クレメンス・クラウスと作曲家自身】

■あらすじ

紀元30年頃のイエルサレム。不気味な月が昇る晩に、ヘロデ王の宮殿で宴が催されている。ヘロデ王の義理の娘サロメは、自分に投げかけられる王のいやらしい視線と宴の退屈さに嫌気がさし、外に出てくる。サロメに恋焦がれる衛兵隊長ナラボートは、今晚は彼女が一段と輝いて見えると称えるが、小姓は不吉な予感がしてたまらない。すると庭の古井戸から「救世主が現れる日がついに来た」と語る声が。それは預言者ヨハナーンの声だった。彼は王妃ヘロディアスの身持ちの悪さを糾弾したために古井戸に幽閉され、ヘロデ王からも恐れられている。興味を持ったサロメは、ヨハナーンを連れてくるようナラボートに命じる。古井戸から出てきたヨハナーンは、穢れた王妃ヘロディアスの罪を激しく非難するが、青白く痩せた身体、黒髪、音楽のような声、赤い唇にサロメはすっかり魅せられてしまう。サロメはヨハナーンにキスを求めるが、彼は拒否。ナラボートが耐えきれず自殺してしまうほど、サロメは何度もキスを求めるものの、ヨハナーンは「呪われよ」との言葉を吐いて、古井戸に戻る。

ヘロデ王はサロメを宴の席に呼び戻し、酒を一緒に飲もう、横に座れ、と誘うが、サロメはすべて断る。ヨハナーンは「ついにその日が来た」と不気味に語り、ユダヤ人たちは神や預言者についての論争を繰り広げ、王はおもむろにサロメに踊りを求める。嫌がるサロメだが「望みのものを褒美にやる」と言われ、ならば、と妖艶な踊りを披露する。踊り終えてサロメが要求したものはヨハナーンの首であった。

王が諭してもサロメが決して要求を変えないため、王はその望みを受け入れる。銀の盆に載って運ばれるヨハナーンの首。それを受け取ったサロメは、ヨハナーンに口づけして恍惚とする。あまりのおぞましさに、ヘロデ王は兵士たちにサロメ殺害を命じるのだった。

【レパートリー】
新国立劇場 2015/2016 シーズン
リヒャルト・シュトラウス

サロメ

【全1幕<ドイツ語上演/字幕付>】

【公演日程】 2016年3月6日(日)14:00/3月9日(水)19:00/12日(土)14:00/15日(火)14:00
【チケット料金】 S:21,600円/A:16,200円/B:10,800円/C:6,480円

指揮:	ダン・エッティンガー
Conductor:	Dan ETTINGER
演出:	アウグスト・エファアーディング
Production:	August EVERDING
美術・衣裳:	ヨルク・ツィンマーマン
Scenery and Costume Design:	Jörg ZIMMERMANN
振付:	石井 清子
Choreographer:	ISHII Kiyoko
再演演出:	三浦 安浩
Revival Director:	MIURA Yasuhiro
舞台監督:	大澤 裕
Stage Manager:	OSAWA Hiroshi
サロメ:	カミツラ・ニールント
Salome:	Camilla NYLUND
ヘロデ:	クリスティアン・フランツ
Herodes:	Christian FRANZ
ヘロディアス:	ロザリンド・プロウライト
Herodias:	Rosalind PLOWRIGHT
ヨハナーン:	グリア・グリムスレイ
Johanaan:	Greer GRIMSLEY
ナラボート:	望月 哲也
Naraboth:	MOCHIZUKI Tetsuya
ヘロディアスの小姓:	加納 悦子
Ein Page der Herodias:	KANO Etsuko
5人のユダヤ人 1:	中嶋 克彦
5 Juden 1:	NAKASHIMA Katsuhiko
5人のユダヤ人 2:	糸賀 修平
5 Juden 2:	ITOGA Shuhei
5人のユダヤ人 3:	児玉 和弘
5 Juden 3:	KODAMA Kazuhiro
5人のユダヤ人 4:	青地 英幸
5 Juden 4:	AOCHI Hideyuki
5人のユダヤ人 5:	畠山 茂
5 Juden 5:	HATAKEYAMA Shigeru
2人のナザレ人 1:	北川 辰彦
2 Nazarener 1:	KITAGAWA Tatsuhiko
2人のナザレ人 2:	秋谷 直之
2 Nazarener 2:	AKITANI Naoyuk
2人の兵士 1:	大塚 博章
2 Soldaten 1:	OTSUKA Hiroaki
2人の兵士 2:	伊藤 貴之
2 Soldaten 2:	ITO Takayuki
カッパドキア人:	大沼 徹
Ein Cappadocier:	ONUMA Toru
奴隷:	松浦 麗
Ein Sklave:	MATSUURA Rei
管弦楽:	東京交響楽団
Orchestra:	Tokyo Symphony Orchestra

【レポーター】
新国立劇場 2015/2016 シーズン
リヒャルト・シュトラウス

サロメ

【全1幕<ドイツ語上演/字幕付>】

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】ダン・エッティンガー Dan ETTINGER

ニュー・イスラエル・オペラ常任指揮者を務めた後、2003/2004シーズンからベルリン州立歌劇場首席指揮者兼音楽監督助手を経て、2009/2010シーズンよりマンハイム州立歌劇場の音楽監督(GMD)に、2010年には東京フィルハーモニー交響楽団第8代常任指揮者、15年より同団桂冠指揮者。15年シュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督に就任。これまでに、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座(バステューユ)、バイエルン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場に定期的に出演して多くのオペラを指揮している。そのほか、マリンスキー劇場、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、イスラエル・オペラなど世界各地で活躍。日本においては、初来日の04年『ファルスタッフ』で新国立劇場にデビュー。以来、新国立劇場には05年『コジ・ファン・トゥッテ』、06年『イドメネオ』、07年『ファルスタッフ』、08年『魔弾の射手』、09年『ラインの黄金』『ワルキューレ』、10年『ジークフリート』『神々の黄昏』、11年『こうもり』で出演している。

【演出】アウグスト・エファードイグ August EVERDING

1928年ドイツのヴェストファーレン州ボットロップに生まれる。ボン大学およびミュンヘン大学で哲学、ドイツ文学、演劇学を修める。ミュンヘン・カンマーシュピールで演出助手として研鑽を積み、その後各地で演出家として活躍。63年に同劇場のインテンドント、73年にハンブルク州立歌劇場、77年にバイエルン州立歌劇場の総監督となり、82年にはバイエルン州の全州立劇場の総監督に就任、93年にバイエルン州テアターアカデミー総監督兼理事長となる。99年ミュンヘンにて逝去。生前は、ドイツ劇場連盟をはじめとする芸術文化関係団体の要職を歴任するかたわら、演出家としても積極的に活躍した。

【サロメ】カミッラ・ニールント Camilla NYLUND

フィンランドのヴァーサ生まれ。1999年から2002年までザクセン州立歌劇場の専属歌手となる。その後ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、チューリッヒ歌劇場、ザルツブルク音楽祭、英国ロイヤルオペラ、ネザールランド・オペラなどに出演を重ねる。『フィガロの結婚』伯爵夫人、『フィデリオ』レオノーレ、『カルメン』ミカエラ、『サロメ』タイトルロール、『ルサルカ』タイトルロール、『ばらの騎士』元帥夫人、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『タンホイザー』エリーザベト、『死の都』マリエッタ/マリー、『ローエングリン』エルザなどを歌っている。最近では、ウィーン国立歌劇場『サロメ』(2015年12月から2016年1月)、『ばらの騎士』、ザクセン州立歌劇場『ダフネ』、ベルリン・ドイツ・オペラ『リエンツィ』イレネ、パリ・オペラ座(バステューユ)『サロメ』、11年から14年までバイロイト音楽祭『タンホイザー』エリーザベト、英国ロイヤルオペラ『ルサルカ』タイトルロール、ネザールランド・オペラ『ドン・カルロ』エリザベッタ、ミラノ・スカラ座『ばらの騎士』元帥夫人、サンフランシスコ・オペラ『ローエングリン』エルザ、バルセロナのリセウ大劇場『ルサルカ』、フィンランド国立歌劇場『死の都』マリエッタ、ベルリン州立歌劇場『サロメ』、ウィーン国立歌劇場新制作『ローエングリン』など、世界各地で活躍。新国立劇場には07年『ばらの騎士』元帥夫人役で初登場して以来の出演となる。

【ヘロデ】クリスティアン・フランツ Christian FRANZ

ミュンヘン生まれ。1991年に弱冠23歳でドイツ国内にて、『魔弾の射手』マックスと『ルチア』エドガルドでオペラデビュー。以来、世界的なヘルデンテノールとして各地に招かれており、ウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、バイロイト音楽祭、ブダペスト芸術宮殿などに定期的に出演している。「ニーベルングの指環」ジークフリート、ジークムント、ローゲ、『バルジファル』タイトルロール、

報道用資料

『トリスタンとイゾルデ』トリスタン、『オテロ』タイトルロール、『道化師』カニオ、『フィデリオ』フロレスタン、『ナクソス島のアリアドネ』バッカスなど幅広いレパートリーを持つ。最近では、バーデン州立歌劇場カールスルーエ『ジークフリート』、ハンブルク州立歌劇場「ニーベルングの指環」及び『オテロ』、ブダペスト芸術宮殿「ニーベルングの指環」『パルジファル』などがある。新国立劇場では2003年、10年『ジークフリート』タイトルロール、04年、10年『神々の黄昏』ジークフリート、06年『道化師』カニオ、14年『パルジファル』タイトルロールに出演している。

【ヘロディアス】ハンナ・シュヴァルツ Hanna Schwarz

ハンブルク生まれ。1975年よりバイロイト音楽祭に出演し、エルダ、フリッカ、ブランゲーネ、ヴァルトラウテを歌う。これまでにメトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演。『パルジファル』クンドリー、『ルル』ゲシュヴィッツ伯爵令嬢、『エレクトラ』クリテムネストラ、『影のない女』乳母、『カルメン』タイトルロールなどを歌っている。最近の出演には、バイエルン州立歌劇場とチューリヒ歌劇場で『軍人たち』、アン・デア・ウィーン劇場で『チャロデイカ』及び『ピーター・グライムズ』などがある。新国立劇場では03年『ジークフリート』エルダ、11年『サロメ』ヘロディアスに出演。さらに2015/2016シーズン『イエヌーファ』プリヤ家の女主人に出演している。本件公演と『イエヌーファ』の両演目に出演となる。【2016年3月3日 出演者変更】

【ヨハナーン】グリア・グリムスレイ Greer GRIMSLEY

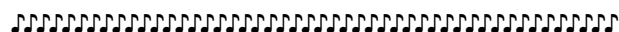
アメリカ出身。アメリカとドイツを中心に国際的に活躍しているバス・バリトン。特にワーグナー歌手として知られており、最近ではメトロポリタン歌劇場の「ニーベルングの指環」のチクルス公演、リセウ大劇場『ジークフリート』さすらい人で出演して好評を博している。主なレパートリーとして『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、『パルジファル』アムフォルタス、『ローエングリン』テルラムントなどがある。また『サロメ』ヨハナーンも主要なレパートリーであり、ダラス・オペラ、サンディエゴ歌劇場などで出演している。今後の予定として、シアトル・オペラ『さまよえるオランダ人』オランダ人などがある。日本においては、2012年に兵庫県立芸術文化センター『トスカ』スカルピア、2013年びわ湖ホール『ワルキューレ』ヴォータンに出演して好評を博している。今後、新国立劇場では2016/2017シーズン『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人での出演が予定されている。新国立劇場初登場。

【ナラポート】望月 哲也 MOCHIZUKI Tetsuya

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。第70回日本音楽コンクール第2位。これまでに『椿姫』アルフレード、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『アラベッタ』エレメル伯爵、『トリスタンとイゾルデ』牧童、『サロメ』ナラポート、『さまよえるオランダ人』舵手、『ピーター・グライムズ』ホレース・アダムス、『タンホイザー』ヴァルター、『魔笛』タミーノ、『夜叉ヶ池』晁、『ヴォツェック』アンドレス、高校生のためのオペラ鑑賞教室関西公演『夕鶴』与ひょう、『さまよえるオランダ人』舵手、『マノン・レスコー』エドモンドなど多数出演している。二期会会員。

【ヘロディアスの小姓】加納 悦子 KANOH Etsuko

東京藝術大学、同大学大学院を修了後、ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。ケルン市立歌劇場専属歌手として『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキなど40以上の演目に出演。国内ではNHK交響楽団など国内主要オーケストラとの共演や、二期会、びわ湖ホールのおペラなどで活躍。最近では、2010年びわ湖ホール『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、13年東京二期会『ホフマン物語』ミューズとニクラウス、同年、びわ湖ホール・神奈川県民ホール共催『ワルキューレ』フリッカなどで評判をよぶ。13年にリリースされたCD「メアリスチュアートの詩」(ALMRECORDS)では第51回レコード・アカデミー賞声楽曲部門受賞。新国立劇場では『ホフマン物語』ニクラウス/ミューズ、『ルサルカ』料理人の少年、『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『魔笛』侍女Ⅱ、『ばらの騎士』アンニーナなどに出演。また13年10月文化庁芸術祭オープニング公演でエルガー「海の絵」の独唱で大きな喝采を浴びた。2016/2017シーズンには『セビリアの理髪師』ベルタでの出演が予定されている。二期会会員。



★本プロダクションはレパトリー公演です。前回の公演写真を宣材としてご提供できます。

<1>



<2>



<3>



<4>



<5>



<クレジット>撮影:三枝 近志/提供:新国立劇場